

# 1班

積極的に派遣 (計画6-2)	90%の学生が～ 国際感覚が養わ れた。	資料6-2-1	大学としては把 握していない。	規定がないことも 一因と考えられ る。	～長期派遣につ いては、利用者 はいなかった。	協定校5大学
促進している努 力が見えない。	数値と文章がず れている。	本文との関連づ けがない。	危機管理等で問 題がある。	問題点の提示して いる。 (問3の学生アン ケートにも見られる)	長期・短期派遣 等の制度につい て説明がない。	5大学→カナダし か触れていない。
具体的に行ったこと を示す資料を提示 補助の記載が見え にくい。	注目すべき観点 がずれている (英語↔国際化)	参照を記入。	協定校以外の話 は、記述しない 方が良い。	単位化について、 前向きに検討し ている旨を書い ていると良い。	派遣の種類につ いて記述すべき。	中国・韓国の大 学について、記 述を追加する。

H23以外のデー  
タがなし。  
(情報不足)

根拠データ

問3の結果を無  
視している。

アンケート項目  
がおかしい。

↓  
削除

記述

課題

指摘点

← 本質  
→ H  
O  
W  
T  
O

# 2班

## 問題のある記述等

自主的に休学して協定校以外に留学している場合、把握していない。

長期派遣については利用者がいない。

語学力が向上したはアンケート結果(資料6-2-3)

90%の学生が「語学力が向上した」と回答しており(資料6-2-3)、国際感覚が養われたと考えられる。

## 問題点、課題

国際交流協定校が5大学あるが、トロント大学についてしか記されていない。他の大学への留学生派遣状況が示されていない。

「語学力が向上した」という回答だけで国際感覚が養われたと言えるのか。根拠となるデータが他にないか。

資料6-2-3において、アンケート回収率が75%となっているが、回収率をもっと高めるべきである。

資料6-2-3  
感想として多くのニーズがあがっているが、これへの対応について記述なし。  
対応、あるいは対応していなければ今後の課題を記入すべき。

全体の学生数に対して、派遣学生数の割合が示されていない。割合によっては定員を増やす余地もあるのでは？

自己評価のスタンスが「査定」的であり、御都合主義の見方が多い  
「分らない」という回答は「向上した」「身についた」に加えるべきか。

## 部局への指摘点

(改)  
北米への語学研修プログラム以外の取組も説明する。  
(中国、韓国とはどうか?)

留学の単位化や長期派遣の読み替え規定を整備し、参加メリットを増やす。

(改)  
国際感覚が身に付いたことを示す指標データを増やす。具体的には...

資料6-2-3問1で「向上した」と回答しているのは80%になるので、正しい数値に修正する

(改)  
研修前後のTOEICテストの点数比較等、数値データがあれば説得力が増す。

学生のアンケートや留学報告書の提出を義務化し、大学として留学をさせる意義を見出す。

(改)  
学生のニーズ、課題を大学としてどうとらえて、対応したかを説明する。

留学希望者向けの事前の英語研修会の実施や、英語レクチャーの充実。(現在の英語レクチャーの取組についても、資料や要項等があれば取りあげる)

派遣「率」を示す。

# 3班

## 本文

## 問題点・課題

## 指摘点

1L  
(北米1、中国3、韓国1)

2L  
長期派遣については、利用者はいなかった。

4L  
大学としては把握していない。

7L  
事後アンケートによると、90%の学生が

資6-2-1  
3日間の研修旅行

資6-2-3  
問1: 英語力が多少なりとも向上しましたか。

8L  
国際感覚が養われたと考えられる。

資6-2-3  
問3:

6L  
毎年、150名程度の学生を派遣している。

全体

1L  
中国3、韓国1に対する詳細がない。

2L  
長期派遣制度の説明がない。

4L  
把握していない。

7L  
「わからない」(資6-2-3)が向上したに入るのか。

資6-2-1  
現地スタッフに連れられた観光体験

資6-2-3 問1:  
多少なりとも記載があいまい。

8L  
資6-2-3 問2:  
わからないの回答が60%ある。

資6-2-3 問3に対する記載・分析がない。

資6-2-2  
H21-135、H22-162とあるが150名程度の記載。

トロントへの語学研修プログラム以外の根拠資料がない。

1L  
地域が北米とアジアだけである。

1L  
中国、韓国の実施要項に関する記述がない。

2L  
「長期派遣」の制度についての説明を加える。改善の検討を行っているか。

4L  
把握するための取組

7L  
「分からない」と回答した人は向上しているかの確認をする必要がある。

6-2-3  
アンケートの質問文の見直し

8L  
国際感覚が養われたとする他の根拠資料が必要

6-2-3  
感想を生かして次年度以降の改善につなげているのか。

6L  
実施要項の「概ね150名」の記載に統一

トロント以外の取組もあれば、それらも追加する。

1L  
中国、韓国に関するデータについても記載する。

1L  
5大学の地域を決定した根拠が必要ではないか。

7L  
「分からない」を含めない。  
(80%と記載する)

6-2-1  
国際感覚が養われたといえるプログラム内容になっているかの根拠資料

# 4班

## 問題のある記述

・現在、評価大学には国際交流協定校が5大学ある(北米1、中国3、韓国1)。本学を休学しないと参加できない長期派遣については、利用者はいなかった。

これは派遣先での単位の読み替え規定ないことも一因。

・学生が自主的に休学して～

・協定校のトロント  
～の語学プログラム～

・90%の学生が語学力向上と回答

・国際感覚が養われたと考えられる。

・6-2-1

6-2-2

6-2-3

なぜ5万円の補助なのか。

定員150名程度なのに派遣者数にばらつきがあるのはなぜか。

5万円補助の予算の根拠・裏付けを挙げて。

6-2-1  
定員があつての選別を行って派遣学生を決めるのか詳細を知りたい。

6-2-2  
応募者の数も挙げてほしい。

6-2-3は単年度では比較できない。

なぜ感想が否定的なものばかりなのか。

6-2-3  
H23だけでなく、他の年度のものも欲しい。傾向知りたい。

感想についての改善、分析をしてほしい。

「積極的に派遣」に向けて、交流協定校を増加させる等、取組があったのか？

直近で協定を結んだ大学があれば、そのデータ(数・大学)。

派遣制度の種類と学生への周知方法の記述が不足している。

休学せずに行ける派遣プログラム(トロント以外)はないのか。

長期派遣について、利用者がいない要因がわかっているのになぜ改善しないのか。

・なぜ規定しないのか  
・規定を検討していないのか  
・改善策があれば教えて

この1文は必要なのか。

・把握できないのか  
・把握していく姿勢はあるのか。

トロント以外のこと書かれてない。

トロント～大学プログラム以外の大学の情報も出してほしい。

6-2-1はどこに引用されるのか。

6-2-1  
どこに引用するのか明記してほしい。

なぜ90%なのか。

90%の数値の根拠が知りたい。

なにをもって国際感覚が養われたといえるのか。

例えば  
・TOEICの受講増えた  
・語学の成績上がった  
・留学生との交流増  
具体例を挙げて。

# 5班

## 問題のある記述

長期派遣については、利用者はいなかった。

学生が自主的に休学して協定校以外に留学している場合、大学としては把握していない。

90%の学生が「語学力が向上した」と回答しており、

国際感覚が養われたと考えられる。

資料6-2-1

定員は概ね150名

資料6-2-2

資料6-2-3  
“英語力”  
問1: “多少なりとも”  
問2: “国際感覚”

## 問題点

長期派遣に関する調査をしていない。  
利用者がいない理由を把握できていない。

把握していないこと自体が問題。

資料6-2-3から見ると、向上したと回答しているのは80%、国際感覚が身についたと回答しているのは40%

プログラムの詳細がわからない  
(授業内容等)。

150名の根拠(学生数から考えて妥当なのか)。

母数・内訳等の詳細が見られない。

設問の表現が曖昧  
(英語力・国際感覚の定義が明確でない)

## 記述の改善策等

学生のニーズ調査を行う必要がある。

休学理由を把握する体制づくりを行う必要がある。

記載内容の訂正を行う必要がある。

学年・学科等の人数を記載する必要がある。

150人程度にした根拠及び学生のニーズにあっているのかを説明する必要がある。

プログラム内容において、学生の感想を取り入れ、改善の必要性がある。

アンケートの内容を明確化する必要がある。